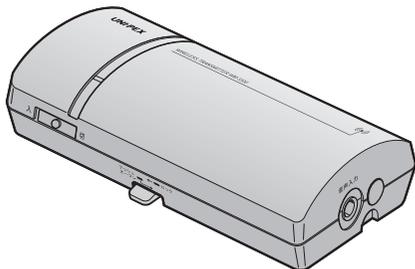


## 取扱説明書(保証書付)

# WM-3500



このたびは、ワイヤレス送信機をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

## 目次

安全上のご注意	1, 2	周波数の設定について	10
免責事項について	2	外部リモートについて	11
本機を長期間お使いの場合	3	使用例	12
上手な使いかた	3	取付方法	13
各部の名称と説明	4~9	チャンネル表示ラベルについて	14
□電池ふたの開けかた	5	定格	14, 15
□ACアダプター(付属)	6, 7	外觀寸法図	15
□電池の入れ方	8	サポートのご案内	16
□音声入力レベル切換スイッチ	8	保証書	16
□グループ/チャンネル設定スイッチ	9		

## 安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

## 安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(上図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

 <b>警告</b> この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
<b>分解／改造はしない</b> 火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。	
<b>航空機内では電源を切る</b> 運航の安全に支障をきたす恐れがあります。	
<b>医用電気機器に近づけない</b> (手術室、集中治療室、CCU*等には持ち込まない) 本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。*CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。	
<b>自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しない</b> 本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。	
<b>電池は充電・分解・ショートしない</b> 電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因となります。	
<b>指定以外のACアダプターを使わない</b> 火災やけがの原因となることがあります。	

 <b>注意</b> この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
<b>電池は極性(プラス+とマイナス-)を正しく入れる</b> 間違えると、電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。	
<b>充電式電池は使わない</b> 発熱、発火の原因になります。また、機器の正常な動作を保証できません。	
<b>異常に温度が高くなる場所に放置しない</b> 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。また湿気、埃及び振動の多い場所に設置しないでください。故障の原因となることがあります。	
<b>通行などの障害となる場所には設置しない</b> 引っかかったり、当たったりなどしてけがの原因となることがあります。	
<b>廃棄は専門業者に依頼する</b> 燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。	

### 免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- ①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
- ②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
- ④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

## お願い

### ●本機を長期間お使いの場合

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があります。故障したり、事故の原因となることがあります。下記①～③の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちにACアダプターをコンセントから抜く、または電池を取り出して電源を切り、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

①煙りが出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。 ②本機に触れるとビリビリと電気を感ずる。 ③電源を入れても音が出ない、その他の異常・故障がある。

## 上手な使いかた

### ■取り扱い上のお願い

#### 技術基準適合証明ラベルについて

本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号(証明ラベル)が貼ってあります。みだりに剥がしたり損傷の無いようご使用ください。

#### 違法改造しないで

本機を分解したり、内部の部品に触ったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

#### 放置しないで

アンプの上や夏の閉め切った車内のような温度の高いところや、湿度の高いところには放置しないでください。

### ■使用上のお願い

#### 本機どうしは、50 cm以上離して使用する

本機を2台以上、及び本機とワイヤレスマイクを50cm以内で同時に使用すると、他の受信機へ混信することがあります。

#### 雑音が入るときは

- ワイヤレスアンテナに近づけてご使用ください。そのときの距離は、2～10mが適当です。ワイヤレスアンテナから2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信など受信機が誤動作することがあります。
- 受信機やワイヤレスアンテナはデジタル機器や高周波雑音のでる機器などから、できるだけ離して設置してください。(5m以上)

#### 強い電波を発する機器に近づけない

- 携帯電話など強い電波を発する機器に近づけると、ノイズが発生します。

#### 取り扱いはていねいに

床に落としたり、物に当たったりしないでください。

#### 乾電池は正しく使う

使いかたを誤ると、電池の液漏れで機器が腐食したり、電池が破裂する恐れがあります。充電、ショート、分解、加熱、火の中への投入はやめてください。

#### 設定時、または使用後は

電源スイッチを切ってください。また、長時間(2週間以上)使用しないときは、乾電池を取り出してください。

#### 設置・使用上のご注意

- 受信設備の移動範囲や設置状態を考慮に入れて、遮へい物(人や壁など)のない場所を選んで設置してください。
- 金属物の近くや鉄筋コンクリートの狭い室内などで移動しながら使用すると、電波の反射や干渉により急に音が出なくなるデッドポイントに入ることがあります。このデッドポイントを解消するためには、位置や方向を変えて最良点をさがして設置してください。

#### 使用電池について

- 充電式電池(ニカド電池、ニッケル水素電池等)のご使用は、機器の正常な動作を保証出来ませんので、ご使用はお控え下さい。
- ご使用頂けます電池は、マンガン乾電池(黒・赤)またはアルカリ乾電池です。

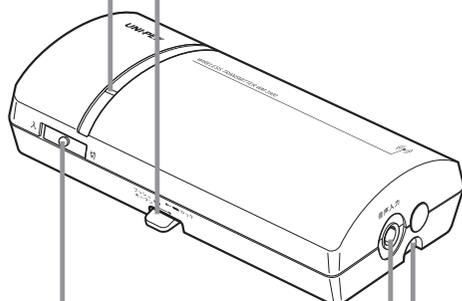
# 各部の名称と説明

## 電源表示灯(赤)

電源スイッチを入れますと点灯し送信状態を示します。

電源表示灯が遅い点滅または消灯する場合は、使用している乾電池が消耗しています。新品の乾電池に交換してください。

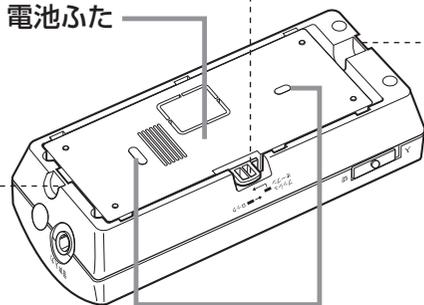
電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(10頁の送信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。電源を切り再度周波数設定をしてください。



## 電源スイッチ

「入」側にスライドしますと電源が入り、電源表示灯が赤色に点灯します。使用しないときは「切」側にして電源を切ってください。

## 電池ふた



## 取付穴

本機を壁面などに取り付けるためのねじ穴です。13頁「取付方法」の説明をご覧ください。

## コード引出し部(両側面2ヶ所)

外部リモート端子やACアダプターを接続する場合にコードを通してください。「外部リモート端子、ACアダプター」の説明をご覧ください。

## 音声入力ジャック (入力レベル4種類切換式 不平衡)

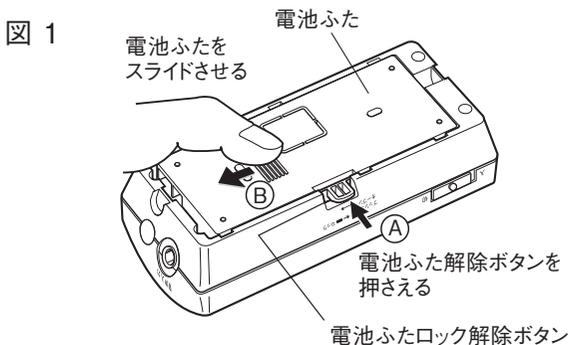
- -62dBV 600Ω 不平衡
  - -42dBV 600Ω 不平衡
  - -22dBV 10kΩ 不平衡
  - -2dBV 10kΩ 不平衡
- マイクホンやアンプの出力ジャックに付属の接続コードを使用し接続してください。接続する機器に合わせ音声入力レベル切換スイッチを設定してください。8頁の「音声入力レベル切換スイッチ」の説明をご覧ください。アンプのライン出力ジャックなどには、付属の接続コードを使用し接続してください。

## 電池ふたロック解除ボタン

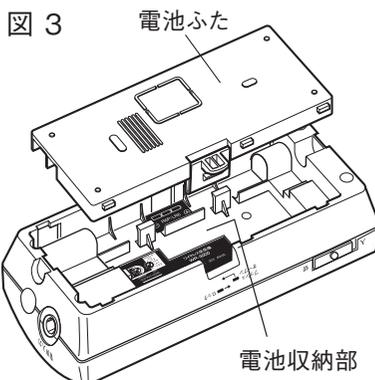
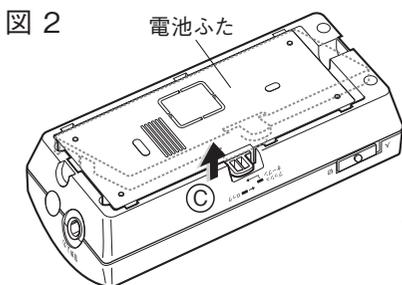
電池の出し入れや周波数の設定、音声入力レベルの切り換えなどをおこなうときは、このボタンを押して次の説明に従って底面の電池ふたを開けてください。

### ■電池ふたの開けかた

- ① 電池ふた解除ボタンを矢印Aの方向に押さえながら、電池ふたを矢印Bの方向にスライドしてください。(図 1 参照)



- ② 電池ふた解除ボタンを矢印Cの方向に上げ、電池ふたを図 2の点線部分の方向にあけてください。(図 2、3 参照)



注) 電池ふたを閉めるときは、電池ふたと本体間のコードをはさみこまないように注意してください。

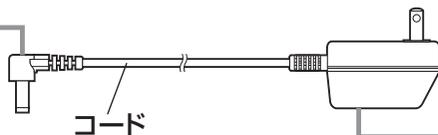
# ACアダプター(付属)の説明 (ACアダプター使用時のみ)

## ACアダプター (付属品)

付属のACアダプターを接続して使用する場合は、7頁「ACアダプターの接続のしかた」の説明に従って接続してください。

### プラグ (本体側)

本機の電池ふた裏側にあるDCジャックに接続してください。



### プラグ

(AC電源側)  
ACコンセントに接続してください。

**警告** ACアダプター 使用時 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちにACアダプターをコンセントから抜き乾電池を取り出して、販売店などにご連絡ください。



プラグをコンセントから抜く

### 分解／改造はしない

火災・感電の原因となることがあります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



### コードやプラグを傷つけない

コードの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。コードやプラグが傷んだら販売店などにご相談ください。



### 水滴のかかる場所に置かない

中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



### 表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となることがあります。



### 指定以外のACアダプターを使わない

火災やけがの原因となることがあります。



### 雷が鳴り出したら、接続コードやプラグには触れない

感電の原因となることがあります。



### 異常に温度が高くなる場所で使用しない、放置しない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所、湿気、埃及び振動の多い場所で使用、または放置しないでください。火災や感電の原因となることがあります。



1年に一度くらいはACアダプターに異常がないか、故障していないか、ACコンセントとプラグの間にほこりのたまっていないかなどを点検してください。火災や故障の原因となることがあります。不明な点は工事店などにご相談ください。



**⚠️ 注意** ACアダプター 使用時 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**電源プラグは根元まで確実に差し込む**

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。



**濡れた手で、ACアダプターをさわらない**

感電の原因となることがあります。



**長期間使用しないときはACアダプターをコンセントから抜く**

火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

**お手入れの際はACアダプターをコンセントから抜く**

感電の原因となることがあります。抜くときは必ずACアダプターを持って抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

**コード類は正しく配置する**

コード類は引っかけたりして引っ張ると製品の落下などにより、けがの原因となることがあります。接続・配線には充分ご注意ください。



**通電中のACアダプターに長時間ふれない**

温度が相当上がることもあり、長時間皮膚がふれたままになっていると低温やけどの原因となることがあります。



**ACアダプターを布団などでおおった状態で使用しない**

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



**■ ACアダプターの接続のしかた**

注) ACアダプターを接続する前に必ず乾電池を取り出してしてください。

- ① ACアダプターのプラグをDCジャックに接続する(図4参照)
- ② ACアダプターのコードを付属のクリップで止める(図4参照)
- ③ 本体側コード引出し部の板を取り除き、コードを通して電池ふたを閉める(図5参照)

注)

- ・コード引出し部は反対側にもあります。必ず、コードはクリップ取付部に近いコード引出し部を通して外部に出してください。
- ・コードは電池収納部内や本体近傍(特に前面)で束ねないでください。雑音発生の原因になります。

- ④ ACアダプター本体をACコンセントに接続する

**● 外部リモートを同時に接続する場合**

- ・外部リモートの接続コードは別のクリップを使用し同様に止めてください。

図 4

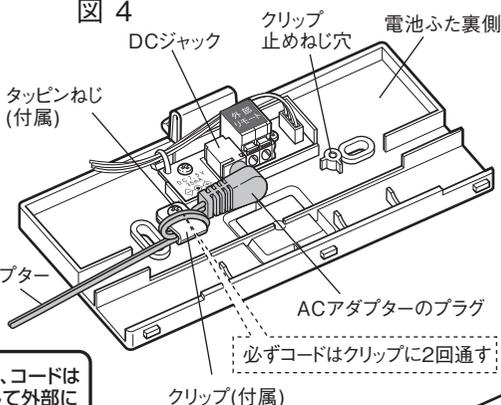
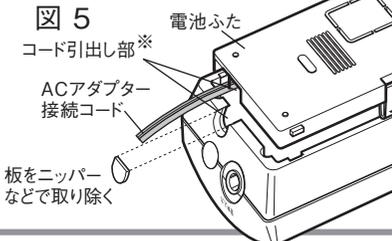


図 5



# 各部の名称と説明(電池収納部)

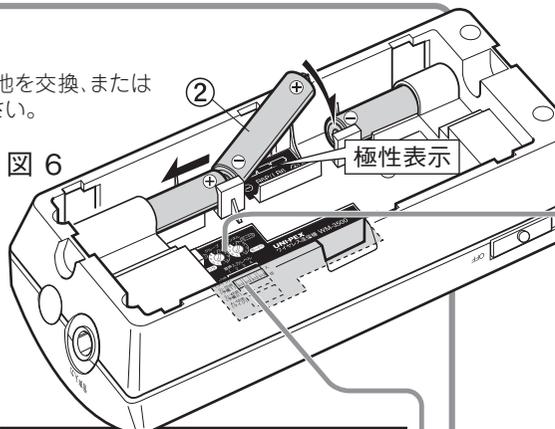
## 電池収納部(極性表示)

本機に使用する乾電池は単3形3本です。乾電池を交換、または入れるときは次の説明に従っておこなってください。

### ■電池の入れ方(電池で使用時のみ)

- ① 2本の乾電池を極性表示に合わせ、電池収納部両端に入れる
- ② 残りの1本の乾電池を⊖極部分から入れ、先に入れた乾電池を押し込みながら⊕極部分を入れる(図6参照)

図 6



### ●使用電池についてのご注意

- ・充電式電池(ニカド電池、ニッケル水素電池等)のご使用は、機器の正常な動作を保証出来ませんので、ご使用はお控え下さい。
- ・ご使用頂けます電池は、マンガン乾電池(黒・赤)またはアルカリ乾電池です。

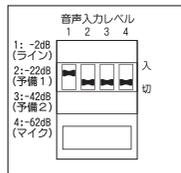
### ⚠警告

- 電池は、極性表示に従い正しく入れる
- ・誤挿入による液漏れや破裂だけがありません。
- ・特にアルカリ乾電池をご使用の場合は液漏れにより、化学やけどの原因となることがあります。

## 音声入力レベル切換スイッチ

本機の音声入力ジャックに接続する機器に合わせて音声入力レベルを切り換えてください。

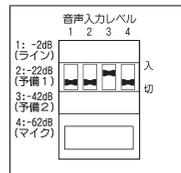
### ●-2dBVに設定



アンプのライン出力端子と接続する場合など

- ・スイッチ1:「入」
- ・スイッチ2:「切」
- ・スイッチ3:「切」
- ・スイッチ4:「切」

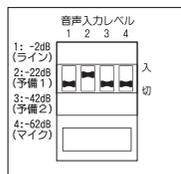
### ●-42dBVに設定



アンプの予備出力端子と接続する場合など

- ・スイッチ1:「切」
- ・スイッチ2:「切」
- ・スイッチ3:「入」
- ・スイッチ4:「切」

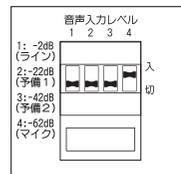
### ●-22dBVに設定



アンプの予備出力端子と接続する場合など

- ・スイッチ1:「切」
- ・スイッチ2:「入」
- ・スイッチ3:「切」
- ・スイッチ4:「切」

### ●-62dBVに設定



マイク出力端子と接続する場合など

- ・スイッチ1:「切」
- ・スイッチ2:「切」
- ・スイッチ3:「切」
- ・スイッチ4:「入」

注) 接続する機器の出力感度レベルを必ず確認してください。また、過入力に注意してください。音が歪まないように接続機器にて出力を調節してください。複数の音声入力レベル切換スイッチを「入」、または全てを「切」にしないでください。入力感度が合わなくなり音が歪む原因になります。

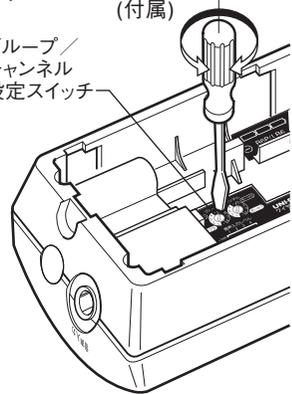
## グループ／チャンネル設定スイッチ

付属の設定用ドライバーで使用する受信機側と同じグループ／チャンネル番号(送信周波数)に設定してください。10頁「周波数の設定について」を参照。(図7参照)

図7

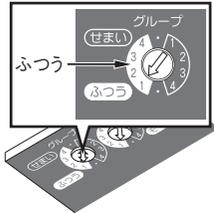
ドライバー  
(付属)

グループ／  
チャンネル  
設定スイッチ



## 「ふつう」「せまい」ポジションについて

グループ設定スイッチ



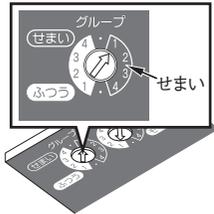
### ◆グループ番号を「ふつう」側で設定する場合。

- ・他のワイヤレス受信機に混信の恐れがない状況で使用するときを設定してください。

(出荷時設定:

「ふつう」側グループ「1」)

グループ設定スイッチ



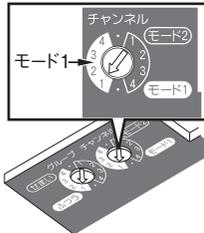
### ◆グループ番号を「せまい」側で設定する場合。

- ・グループ番号を「ふつう」側の設定で使用中に、近隣で使用されるワイヤレス受信機に混信するとき、または混信の恐れがあるときに設定してください。送信出力\*を抑え、混信を防ぐことができます。

\*「ふつう」側：1mW、「せまい」側：0.3mW

## 「モード1」「モード2」ポジションについて

チャンネル設定スイッチ

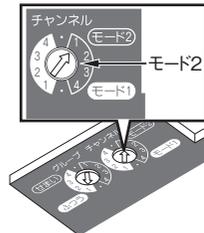


### ◆チャンネル番号を「モード1」側の設定で適合する受信機。

[モード1適合機種]

- ・ワイヤレスアンプ：WA-371シリーズ、WA-372シリーズ
  - ・ワイヤレス受信機：WTD-304、WTS-322、WR-3000
  - ・ワイヤレスモニタースピーカー：WAS-05A
  - ・300MHz帯ワイヤレスチューナーユニット全機種
- (出荷時設定：「モード1」側チャンネル「1」)

チャンネル設定スイッチ



### ◆チャンネル番号を「モード2」側の設定で適合する受信機。

[モード2適合機種]

- ・携帯レシーバー：WR-C301

# 周波数の設定について

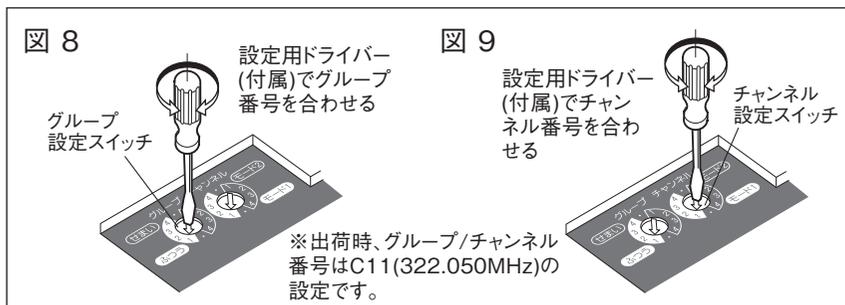
- グループ/チャンネル設定スイッチを切り換える場合は電池ふたをはずし、付属の設定用ドライバーを使用し、スイッチを回転させてください。(図8、9参照)

## 1. グループ番号を設定する

グループ(GROUP)設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号(1/2/3/4)に合わせます。(図8参照)

## 2. チャンネル番号を設定する

次にチャンネル(CH)設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(図9参照)



### ご注意

- 本機と受信機は、同じ周波数(グループ/チャンネル)に設定してください。
- ◎下記の送信周波数表にないグループ、チャンネルに設定しますと、電源表示灯が早く点滅します。電源スイッチを切り、再度周波数設定をおこなってください。

## 300MHz帯ワイヤレスシステムについて

### ■グループについて

- 同一場所で本機を複数台使用する場合、または他の300MHz帯ワイヤレスシステムと共に使用する場合は、全て同じグループにして、全て違うチャンネルに設定してください。
- ・グループ1~3の中から1つのグループを選びますと、最大4波まで使用できます。
- ・グループ4は1波使用できます。

### ●送信周波数表

周波数(MHz)	グループ/チャンネル番号			
	グループ 1	グループ 2	グループ 3	グループ 4
322.025			C31	
322.050	C11			
322.075		C21		
322.100	C12			
322.125		C22		
322.150			C32	
322.250	C13			
322.275		C23		
322.300				C41
322.325			C33	
322.350	C14			
322.375		C24		
322.400			C34	

### ■チャンネル呼称について

例 C 1 3  
 ⋮ ⋮ ⋮  
 (a) (b) (c)

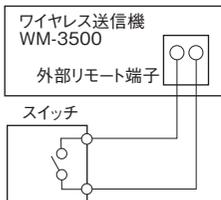
- (a) ……300MHz帯を表わす
- (b) ……グループ(GROUP)番号を表わす
- (c) ……グループ内のチャンネル(CH)番号を表わす

# 外部リモートについて

**外部リモート端子** 外部で電源を「入/切」する場合は、この端子を利用してください。

図 10

・接続例



●外部リモート端子を利用することにより、電源スイッチが「切」の場合でも外部制御で電源を「入」にすることが可能です。接続のしかたについては下記の「外部リモートの接続のしかた」をご覧ください。(図10参照)

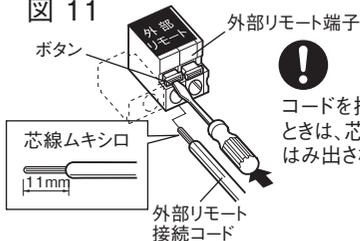
●ご注意

- ・外部リモートを使用し電源の「入/切」をおこなう場合は、必ず電源スイッチを「切」にしてください。
- ・外部リモートを使用し電源を「入」にすると電源表示灯が点灯します。また、「切」にすると電源表示灯が消灯します。

## ■外部リモートの接続のしかた

① 端子のボタンを小型ドライバーなどで押しながら、外部リモート接続コードを接続する(図11参照)

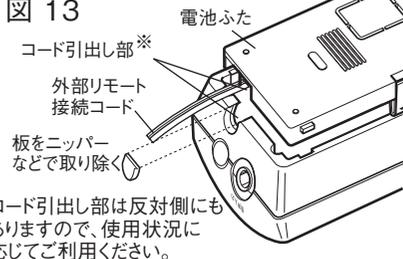
図 11



コードを接続するときは、芯線をはみ出さない

③ 本体側コード引出し部の板を取り除き、外部リモート接続コードを通して電池ふたを閉める(図13参照)

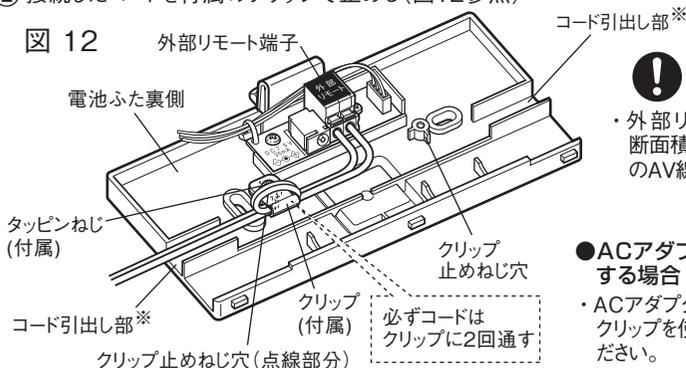
図 13



※コード引出し部は反対側にもありますので、使用状況に応じてご利用ください。

② 接続したコードを付属のクリップで止める(図12参照)

図 12



・外部リモート接続コードは断面積 $0.85\text{mm}^2 \sim 1.25\text{mm}^2$ のAV線を使用する。

●ACアダプターを同時に接続する場合

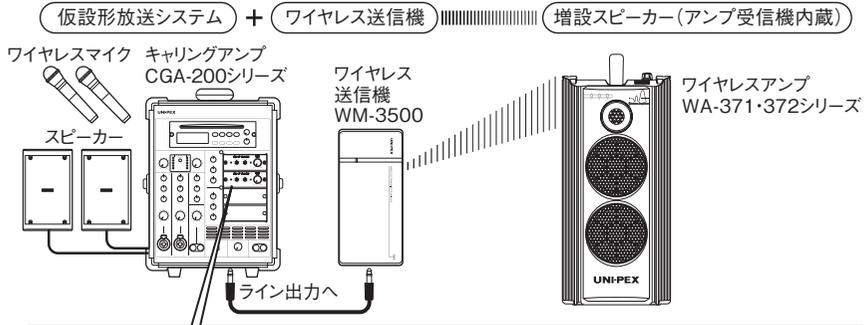
- ・ACアダプター接続コードは別のクリップを使用し同様に止めてください。

注)

- ・コード引出し部は反対側にもあります。必ず、コードはクリップ取付部に近いコード引出し部を通して外部に出してください。
- ・コードは電池収納部内や本体近傍(特に前面)で束ねないでください。雑音発生の原因になります。

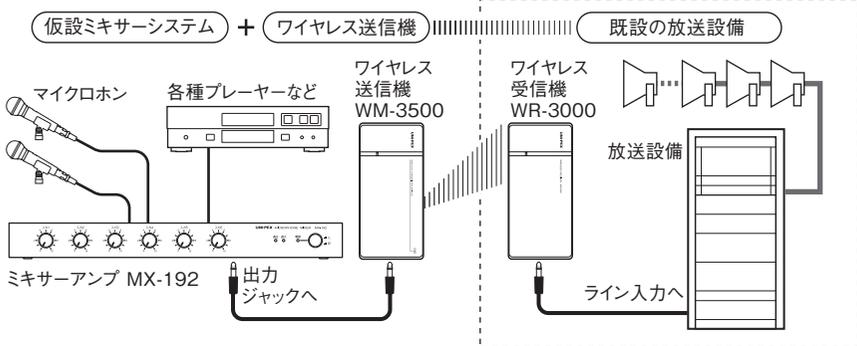
# 使用例

## ① 移動形放送システムにスピーカー(アンプ・受信機内蔵)を増設する場合。

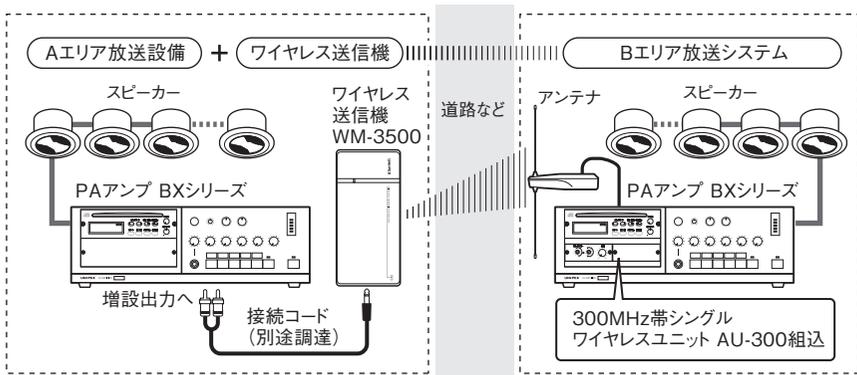


注) CGA-200シリーズ本体側にはワイヤレスチューナーユニットDU-8200をご使用ください。

## ② 既設の放送設備を別の用途に使用する場合。



## ③ 隣接した別系統のエリアの放送設備を配線せずを利用する場合。



# 取付方法

- 本機の重量に十分に耐えられる場所または、補強を施した場所へ設置してください。  
尚、取付場所の強度不十分、取付方法の不備による事故に対する一切の責任は負いかねます。

## ■取り付けかた

- ①取付穴にねじを入れ、電池ふたを取付面に固定します。(図14、15参照)
- ②固定した電池ふたの本体取付ガイド部を本体側に合わせてはめ込み、  
下向きにスライドさせロック状態にしてください。(図14参照)

図14

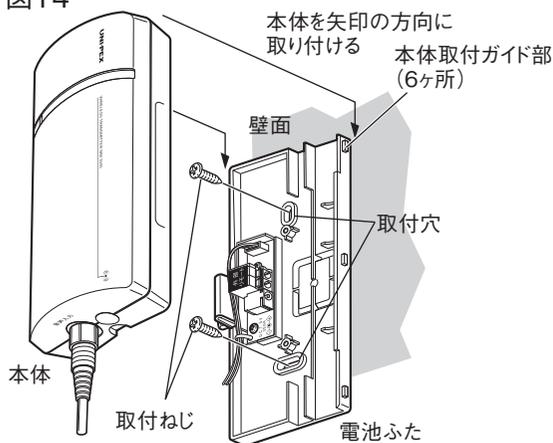
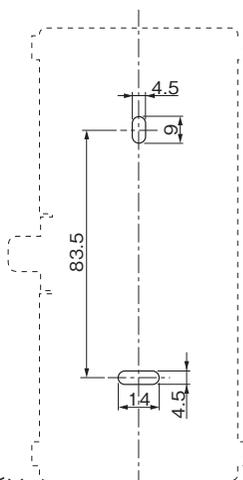


図15 取付穴寸法図 (単位:mm)



## ●ご注意

- ・必ず本体を上向きに持ち上げて、ロック状態を確認してください。

※取付ねじは付属していません。  
取付面の材質に適したねじを使用してください。



### 重量に耐える場所に取り付ける

取付場所の強度が不十分なとき、落下したりしてけがや破損の原因となることがあります。



### 取付ねじはしっかり締め付ける

落下などの事故の原因となります。また、ねじの掛かり代を十分に確保してください。

## ■取り外しかた

- ・取外しは電池ふたロック解除ボタンを押しながら本体を上向きにスライドさせ、手前に引いてください。(図16参照)

図16



# チャンネル表示ラベルについて

設定したグループ/チャンネルがいつでも認識できるようにチャンネル表示ラベルを本体に貼付けてください。(図17、18参照)

## ■チャンネル表示ラベルの貼りかた

- ① 設定したチャンネルと同じチャンネル表示ラベル(付属)をチャンネルラベル(付属)に各々貼り付ける
- ② チャンネルラベルを本機の適当な位置に貼り付ける

図 17

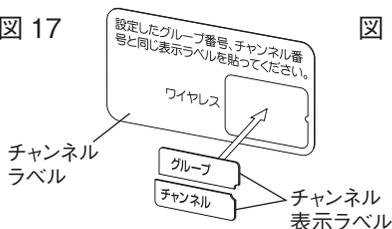
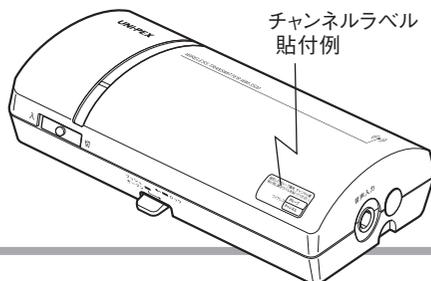


図 18



## 定格

電 波 形 式	30KF3E			
送 信 周 波 数	322.025 MHz ~ 322.150 MHz、 322.250 MHz ~ 322.400 MHz (25 kHz間隔 13波) 中1波			
発 振 方 式	水晶制御PLLシンセサイザー方式			
変 調 方 式	リアクタンス変調			
空 中 線 電 力	1 mW(ふつう) / 0.3mW(せまい)			
ア ン テ ナ	内蔵アンテナ			
変 調 感 度	±2.25 kHzFM (基準変調にて)			
周 波 数 特 性	モード1 : 100 Hz ~ 7 kHz (1 kHz基準 50 μs エンファシス) モード2 : 120 Hz ~ 7 kHz (1 kHz基準 330 μs エンファシス)			
入 力 感 度 及 び イ ン ピ ー ダ ン ス	-62dBV ±3dB 600Ω 不平衡	-42dBV ±3dB 600Ω 不平衡	入力感度切替式	
	-22dBV ±3dB 10kΩ 不平衡	-2dBV ±3dB 10kΩ 不平衡		
モ ー ド	モード1 : 50 μs エンファシス / モード2:330 μs エンファシス			
ト ー ン	モード1 : 14.800kHz / モード2 : 14.780kHz			
使 用 電 源	単3形乾電池× 3、専用ACアダプター			
消 費 電 流	35 mA (乾電池 4.5V / 外部電源端子 7.5V)			
電 池 寿 命	約30時間 [マンガン乾電池 R6PU(黒)使用時] (常温連続使用にて)			
使 用 温 度 範 囲	0°C ~ +40°C			
寸 法	幅90mm、高さ190mm、奥行47mm			
質 量	約 270g(乾電池を除く)			
外 装	ダークグレー色 樹脂 (マンセル N3 近似色)			
付 属 品	取扱説明書(保証書付) 1、チャンネル設定用ドライバー 1、チャンネルラベル 1、 チャンネル表示ラベル 1、単3形乾電池(テスト用 <sup>※</sup> ) 3、ナイロンクリップ 2、 2極大形単頭プラグ付コード(1m) 1、タッピンねじ(φ3×10) 2、ACアダプター 1			

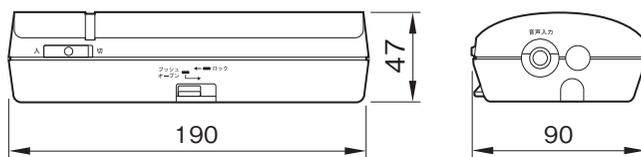
<sup>※</sup> 付属の乾電池はテスト用ですので、早めに新品の乾電池と交換することをお勧めします。

## ■ACアダプター

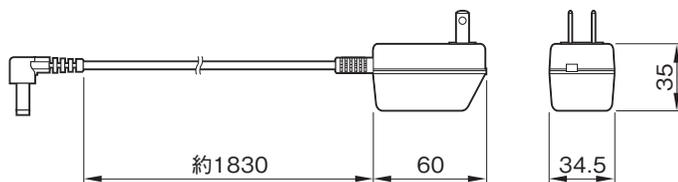
入	力	AC100V 50/60Hz 10-20VA <sup>※</sup>
出	力	DC 7.5V 0.8A MAX

※定格入力欄の「10-20VA」は、機器の定格入力容量が10VAから20VAの範囲であることを表しています。  
(IEC規格に基づく)

## 外観寸法図 (単位: mm)



## ■ACアダプター



## サポートのご案内

### ■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

### ■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページもしくはQRコードにアクセスしてください。  
<http://www.unipex.co.jp>



### ■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

## UNI-PEX お客様ご相談センター

# 0120-56-5245

（通話料無料）

受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）

PHS・携帯電話からのご利用は、

**072-855-3334**（通話料がかかります）

#### 【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

## ワイヤレス送信機 WM-3500 保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部) 6ヶ月
お客様	お名前 <b>見本</b> 様 ご住所 〒 電話( ) -
販売店	店名・住所 電話( ) - 印

#### 保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

(This warranty is valid only in Japan)

#### 無料修理保証の範囲

- ①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
- ②修理の際は必ず保証書の提示があること。
- ③当保証書の所定項目に必要な事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

#### 無料修理保証の免責範囲

(次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)

- ①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
- ②不当な修理改造による故障、損傷。
- ③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
- ④お買い上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
- ⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
- ⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
- ⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 **日本電音株式会社**

発売元 **ユニペックス株式会社**

〒753-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL.(072)855-3334(代)